



くらはし

舞鶴市立倉梯小学校
学校だより7・8月号
令和7年7月18日

関係性の中で育つ

～共に学び、共に磨き合い、共に育つ～

中庭の大桜が、濃い緑の葉を広げています。春には満開の花で子どもたちの新たな門出を祝ってくれたこの桜も、今は力強く夏の陽射しを受け止めながら、静かに子どもたちの成長を見守っているようです。季節の移ろいとともに、子どもたちもまた、確かな歩みを重ねてきました。

1学期を振り返ると、子どもたちの成長の背景には、いつも「関係性」がありました。友達との関わり、先生との対話、地域の方々とのふれあい、そのひとつひとつが、子どもたちの心を動かし、学びを深めるきっかけとなっていました。

学習面では、ある教室での一場面が印象に残っています。国語の時間、子どもたちは、手が鉛筆で真っ黒になるほど夢中になって書き続けていました。自分の読みを深め、登場人物の気持ちに寄り添いながら、自分の言葉で思いを綴る姿に、学びの本質が垣間見えました。こうした姿は、友達の発言に刺激を受けたり、先生とのやりとりを通して考えを広げたりする中で育まれていくものです。

2学期は、さらに学びの場を地域に広げ、探究的な学習を進めていきます。

生活面では、1年生の成長がとても頼もしく感じられました。入学当初は緊張した面持ちで登校していた子どもたちも、日を追うごとに笑顔が増え、授業や活動に意欲的に取り組むようになりました。給食の準備や掃除など、日々の生活の中で「自分でできること」が増え、自信を深めていく様子が見られました。

他学年との関わりも温かく、1年生から6年生までが互いに声をかけ合い、助け合いながら学校生活を送る姿は、まさに「共に育つ」倉梯っ子の姿でした。

特に児童集会活動では、子どもたちの本領が発揮されました。今年から始めた全校ダンスでは、学年を越えて一体感が生まれました。また、高学年の代表児童が意気に感じて、身振りも声も次第に大きくなり、全校遊びを盛り上げてくれました。自分の役割を果たしながら、仲間と協力して場をつくり上げる経験は、子どもたちの心を大きく成長させてくれました。

行事では、修学旅行や野外活動など、校外での学びの機会が多くありました。地域や社会のことを学ぶだけでなく、多くの大人の方々との関わりや、仲間との共通体験を通して、子どもたちは多くのことを学びました。集団の中で自分の役割を考え、互いに支え合いながら過ごす時間は、教室では得られない貴重な学びの場となりました。

6年生が参加した5月の陸上大会では、記録に挑戦する姿だけでなく、仲間を応援し、励まし合う姿が印象的でした。仲間と共に喜びや悔しさを分かち合う経験ができました。

まもなく夏休みを迎えます。子どもたちがそれぞれの家庭や地域で、心身ともに健やかに、そして安全・安心に過ごせるよう、ご家庭でも見守りをお願いいたします。

私たち教職員も、より子どもたちが主体的に、意欲的に学べるよう、研修を深める夏にしてまいります。

2学期にはまた、一回り成長した子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

校長 四方 直人